

金)を取り扱っている。

### 「環境十防災」意識の共有化 という社会的使命

琵琶湖西岸には断層帯が走り、今後三〇年以内に、この断層帯を震源とするマグニチュード七・八程度の大地震が発生する確率は、〇・〇九%から九%とされている。このため、「お客さまの生命・財産を守るお手伝い」との観点から、エコ住宅に加え、耐震住宅の普及・促進を目的に、購入に必要な資金の貸出金利を優遇する「エコ&耐震住宅ローン」の取り扱いを二〇〇五年八月から開始。今後とも災害に備えた金融商品の内容充実を図る。

### 株主総会もエコスタイルで

滋賀銀行は今年初めて、株主総会で役員全員が夏季の軽装で出席するとともに、株主の皆さまにも軽装でのご出席をお願いした。「株主総会のような公式の場での軽装はまずいのでは」との事前の心配を打ち消すように好評で、「環境保全、待ったなし」を実感させる一例となった。行員の階層別研修でも積極的に「CSR」をテーマに取り入れる一方、琵琶湖の清掃活動に行員がボランティアとして汗を流すなど地道なCSR活動を展開している。

### 「三方よし」から 「四方よし」へ

CSRの追求は、それぞれの企業の独自性が反映されるべきものである。滋賀銀行は今、「三方よし」から「四方よし」へ歩みを進めている。「売り手よし、買い手よし、世間よし」に「環境よし」を加えて企業の社会的責任を追求しようとの「宣言」である。この「四方よし」の精神で、地域金融機関ならではのCSRの充実に一層取り組んでいきたい。

「Principles for Lake Biwa」  
「しがきん」琵琶湖原則支援資金  
PLB 資金

エコ・アコモパニプラン  
ISOプラン  
リサイクルプラン  
省エネ・温暖化ガス削減プラン

「環境を主軸とするCSR(企業の社会的責任)活動に対し、貸出金利を最大で0.5%優遇いたします。」

滋賀銀行  
http://www.shigagin.com

<b>経済広報</b>		<b>10</b> 月号 定価 315円 (税込)	財団法人 <b>経済広報センター</b> TEL:03-3201-1412 FAX:03-3201-1404 E-mail:keizaikoho@kkc.or.jp
<b>第22回「企業広報賞」表彰式を開催～受賞企業・受賞者挨拶～</b>			
<b>企業広報大賞</b>	<b>企業広報経営者賞</b>	<b>企業広報功労・奨励賞</b>	
<b>岡野幸義</b> <small>ダイキン工業 代表取締役社長兼COO</small>	<b>竹本正道</b> <small>日東電工 取締役社長CEO兼COO</small>	<b>早川満久</b> <small>肥銀用度センター 取締役 (前 肥後銀行 総合企画部長代理 兼 IR室長兼地域文化課長)</small>	
	<b>西田厚聰</b> <small>東芝 代表執行役社長</small>	<b>廣田康人</b> <small>三菱商事 総務部長 (前 広報部長)</small>	
	<b>渡邊美樹</b> <small>ワタミ 代表取締役社長・CEO</small>		
●企業人派遣講座 <b>長屋明浩</b>		トヨタ自動車 デザイン本部 デザイン開発室長	

# 近江商人のDNAを受け継ぎ 日本版CSR経営に挑戦する

滋賀銀行総合企画部CSR室長

西堀 武  
にしほり たけし



## CSRの原点は 近江商人にあり

滋賀銀行の「CSR」(企業の社会的責任)の考えの源流は、実は今から四〇〇年前の江戸時代に「近江商人」が確立した商人道徳、「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)の哲学にある。

滋賀銀行の行是(社是)は、「自分にきびしく、人には親切、社会につくす」(一九六六年制定)であり、近江商人の「三方よし」の精神を色濃く反映している。つまり、自己研鑽に励み、お客さまには「知恵と親切」を以て接し、究極は社会に貢献することで、社会の一員として社会的責任を果たしていこうとの社会への「約束」である。そして、今やCSRの追求は、現代企業の重要な経営施策の一つとなっているが、実は近江商人の「三方よし」の精神に源流があると私たちは考えている。まさに『古くて新しい考え』であり、

当行の従業員の心に脈々と受け継がれている。

## 環境を主軸とした CSR経営を実践

このような精神的基盤に立つ滋賀銀行は、近畿一四〇〇万人の水源であり、「未来からの預かりもの」である琵琶湖の湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として、「環境」を主軸に、福祉と文化の振興も視野に入れたCSR経営に取り組んでいる。

日本の環境展覧会の先駆けである「びわ湖環境ビジネスメッセ」に二〇〇一年度から毎年出展。来場者からは「業種柄、どちらかと言えば環境負荷が少ない銀行が、なぜ環境保全に力を入れるのか」との素朴な疑問が寄せられる。しかし、銀行は「金融」という経済の血液である役割を通じて、お金の流れを、あるべき方向に向かわせ、社会そのものを変えられることができる数少ない業種であることも事実である。このような考えに立ち、滋賀銀行

行では、省資源・省エネルギーなど自らの努力に加え、金融機関ならではの取り組みとして、環境保全に取り組まれるお客さまを金融面で支援する「環境対応型金融商品・サービス」の開発・提供に力を入れている。「地域の皆さまと手を携えて」との願いである。

## 「しがぎん琵琶湖原則」を策定

具体的には二〇〇五年、滋賀銀行版「赤道(エクエーター)原則」<sup>(注)</sup>とも言える、「しがぎん琵琶湖原則(PLB = Principles for Lake Biwa)」を策定し、琵琶湖をはじめとした地球環境保全への願いを込めたこの原則への賛同を広く呼びかけている。ご賛同いただいたお客さまのうち、希望される方については、滋賀銀行独自の環境格付である「PLB格付」に基づき、お客さまの環境を主軸としたCSR経営を評価し、お取り組み度合いに応じて、最大で金利を年〇・五%優遇する、「しがぎん」琵琶湖原則支援資金(PLB資

(注)赤道原則(Equator Principles):民間金融機関がプロジェクトファイナンスの実施に際して配慮すべき環境・社会的影響評価の指針。2003年、世界銀行と国際金融公社が策定した